

# 学園創立70周年記念式典 中止のお知らせ



11月23日(祝)に大阪狭山さやかホールで予定していました学園創立70周年行事ですが、秋口にかけては新型コロナウイルス感染症の第2波が予想される中で大ホールに集まってのパネルディスカッションや立食パーティーを開催することは断念せざるを得ないと理事会で判断いたしました。懐かしい先生方や友人と会えることを楽しみにしていただいた皆様には大変申し訳ございませんがご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

記念パネルディスカッション  
テーマ 「いのちをみつめて」  
—こどもたちとあゆむ真の教育とは—  
パネリスト  
歌手 加藤 登紀子  
ノンフィクション作家 柳田 邦男  
『無言館』館主・作家 窪島 誠一郎  
学校法人千代田学園理事長 高橋 保

記念パネルディスカッションは7月28日無言館でオンラインで行いました。ダイジェスト版がYouTubeにアップされています。学園ホームページ、および各校種のホームページにリンクが張っていますのでそちらからご覧ください。

## 役員紹介

同窓会総会が昨年10月に開催され、今期の役員が次のように決まりました。



会長(幼教16期) 松原 栄子	書記(幼教47期) 林 咲希
副会長(幼教5期) 仲村佐江子	会計(幼教4期) 寺坂恵子
副会長(幼教16期) 大仲 明美	会計(幼教14期) 森 寿美
副会長(幼教36期) 本田 和隆	会計(総3期) 辻井 景子
副会長(総3期) 西浦 良治	会計監査(幼教5期) 柴田 礼子
副会長(総3期) 下岡 良樹	会計監査(総3期) 順西 央
書記(幼教4期) 堤 和子	
書記(幼教14期) 森 寿美	

よろしく申し上げます

## ひまわり会はこんな学生支援もしています。

- ① 「ひまわり学業奨学金」  
在学をを対象に成績優秀でありながら経済的事情により修学困難な学生を支援する目的で、給付する奨学金制度です。卒業後の返還義務はありません。(詳しくは同窓会事務局へお問い合わせ下さい。)
- ② 「カレッジメイト」  
入試の種別を問わず、授業料減額の特典を受けることができます。本学卒業生、在学生の兄弟姉妹、父母、子女、孫が対象です。(詳しくは短大事務局へお問い合わせ下さい。)

## 同窓会事務局より

※住所・姓名変更された方は、同封のハガキで同窓会へお知らせください。問い合わせがふえています。お友達の変更も教えてください。ハガキにはご記載ください。  
※3名以上でミニ同窓会を開かれたら同窓会へ通信をお願いします。  
送ってくださった方に、粗品を進呈いたします。  
※最近、同窓会を名乗り、個人情報を引き出すような事態が発生しています。本同窓会は、個人に対してそのような行為は一切行なっていません。  
不審な問い合わせがあった場合、至急ご連絡ください。  
※同窓会だより『ひまわり会 NEWS』は就労継続支援B型事業所「なの花」さんと製作に携わっていただいています。

連絡先  
同窓会メール [dousoukai@chiyoda.ac.jp](mailto:dousoukai@chiyoda.ac.jp)  
ホームページ <http://www.chiyoda.ac.jp/dousoukai/>  
〒586-8577 大阪府河内長野市楠町西1090番地  
千代田学園本部気付 同窓会事務局 行  
Tel 0721-69-6120 Fax 0721-52-5782



ひまわり会もFacebookに参加しています。



# ひまわり会NEWS

Vol.19

大阪千代田短期大学 〒586-8511 大阪府河内長野市小山田町1685 TEL 0721-52-4141 <http://www.chiyoda.ac.jp/>

発行：ひまわり会 2020.9.01  
〒586-8577  
千代田学園 気付 同窓会事務局  
TEL:0721-69-6120 FAX:0721-52-5782  
<http://www.chiyoda.ac.jp/dousoukai/>  
E-mail: [dousoukai@chiyoda.ac.jp](mailto:dousoukai@chiyoda.ac.jp)

## ご挨拶

コロナ禍の「入学式」、学生は笑顔で元気に頑張っています！

大阪千代田短期大学 学長  
松浦 善満



ひまわり会の皆さんこんにちは。コロナ禍の中、お元気で過ごしてはいかがでしょうか…。大学では、4月1日の入学式をやむなく延期し、郵送による課題学習とオンライン授業に切り替えました。その後は、学生のパソコン環境を整えるために、ひまわり会からも暖かいご支援いただき、おかげで大学は授業とゼミを続けることができました。ここに皆様方に心から感謝の意を表させていただきます。

6月1・2日には、保護者にはご遠慮いただきましたが、新入生(94名)を2日間に分けて分散型の「入学式」を実施しました。学長式辞では、アイザック・ニュートンの学生時代にもロンドンでペストによる感染症が広がり、大学が約2年閉鎖されたことがあったこと。そして故郷に帰ったニュートンがこの「創造的期間」を活用して、万有引力を発見したことを話しました。式場で、「引力」によりリンゴが空中浮揚する「高難度」のマジックを披露しましたので、56期生には印象に残る「入学式」だったと思います。

このように本学では、「3密」対応に万全を期して、分散登校による対面授業とパソコンによるオンラインでの自宅学習とを併用して難局を乗り切るために頑張っています。



ひまわり会 会長  
松原 栄子  
(幼教16期生 旧姓：西川)



会員の皆さまには、日頃から千代田短期大学同窓会ひまわり会の諸活動にご理解とご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

春からの新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの生活が一変しました。このような情勢のなか、母校千代田短期大学では延期されていた入学式が6月、2回に分けて挙行されました。現在、オンラインや分散授業を取り入れるなど、三密を避ける工夫をしながらの授業が行われています。

また、昼休みの生協食堂では久しぶりに登校した学生の笑顔と交流の輪が広がり、温かい雰囲気が醸し出されています。今後も、学生は教育実習そして就職活動など、まだまだ乗り越えなければなりません。保育・幼児教育、児童福祉分野など、社会に巣立つ日も遠くありません。その折には、卒業生の皆様の暖かいご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、本年は学園創立70周年を迎えます。本学では、これを記念して暁光高校、附属幼稚園さんと協力し、「地域福祉・教育総合センター(仮称)」の設置を準備しています。また、短期大学から4年制大学への編入の仕組みを作るべく新設予定の高野山大学文学部教育学科の小山田誘致を来年4月に予定しています。来年度大阪千代田短期大学は新しい一歩を踏み始めますので、ぜひ河内長野市・小山田に足をお運びください。お待ちしております。

最後になりましたが、これから猛暑日に入ります。ひまわり会・会員の皆様方のご健康とご多幸を心から祈念いたします。

学生においては、アルバイトが減少したり無い状態が続いたり、生活や勉強に大きな影響が出ています。オンライン授業にはパソコンが不可欠なため、学園本部からは『学習環境整備支援費』が、全学生に支給されました。それにあわせて、同窓会からも『支援協力金』を全学生に支給いたしましたことをこの場においてご報告するとともに、会員の皆さまのご了承をいただきたいと思っております。

楽しみにしておりました11月23日の『千代田学園70周年記念行事』が中止となり、皆さまとお会いできなくなったことがとても残念です。新型コロナウイルスが一日も早く終息し、日常が戻ってくることを心から願うばかりです。

明けない夜はありません。今は闇が深くても、必ず夜明けはやってきます。それまで健康に気をつけて頑張ってください。

# 小山田祭未定

※詳しくは、ホームページ・Facebookにて、ご確認をお願いいたします。

2019年度(54期生)の  
幹事会を開催します

日時：10月24日(土) 14:00~  
場所：会議室



## ひまわり会のみなさまへ



学校法人千代田学園  
理事長 高橋 保



同窓生の皆様今日は。コロナ禍にしこたま凹まされているところに、線降水帯がこれでもかと襲い掛かり、記録的な豪雨によって全国各地で大打撃を受けました。お亡くなりになられた方を心からお悔やみするとともに、被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

さて、同窓生の皆様は如何お過ごしですか。自粛生活で不自由を託ち、常に感染予防に気を付けなければならない日々への戸惑い、いかばかりかと拝察いたします。そんな中、皆様の母校学校法人千代田学園は、お陰様で本年度創立70周年を迎えました。卒業生おひとりおひとりが、その歴史を築いてこられたのだと思うと、時間の重みはずしりと申し掛かり、学園理事長としての責務に思わず襟を正さずにはられません。一方、学園を取り巻く状況に目を転じると、片時の油断も出来ないことが見て取れます。人口減少社会と言うかつて経験したことのない時代にあって、学生、生徒、園児を如何に迎えるか、並尋常な課題ではありません。70周年は節目ではあっても、大切なことは更に100周年に向かって、新たな一歩をどのように踏み出すか、との展望こそが何よりも求められていると承知しています。

今、学園が心をつにして取り組んでいるのは、人々の暮らしや生活を支えるために、欠かすことが出来ない基盤である教育や医療、福祉などの分野で、教員や看護

師、保育士など対人援助専門職が輩出する学園として、地域社会から信頼され頼りにされる存在を目指していることです。世界中をマネーゲームが席卷し、人々を蝕み、殺伐荒涼とした今日の社会の在り様は、不健全極まりないとの思いから、穏やかで安心して日々が過ごせることに、より価値を見出せる未来を希求して、共生社会の一翼を担う学園足らんと私たちは舵を切ったのです。しかし、コロナ禍でリモートを余儀なくされ、働き方改革で在宅ワークが普及し始めるなど、労働環境は大きく変容して行く予兆も見え始めています。それは同時に東京一極集中弊害打破の決め手になるかも知れません。そうした可能性を認めつつ、でもそれが全てでは無いこと。人は人との関係を介して自らを知り、己を回復する術を得られる存在であると言う一点だけは、未来永劫色褪せることはないと固く信じています。

70周年を寿ぎ、一同に会してシンガーソングライターで歌手の加藤登紀子様、ドキュメンタリー作家の第一人者柳田邦男様、戦没画学生慰霊美術館館主の窪島誠一郎様を囲んでの記念シンポジウム「いのちをみつめて」を初め、楽しいひと時を計画していましたが、コロナ禍の第2波を勘案し、サヤカホールでの開催は断念致しました。楽しみにして頂いていた皆様には諸般ご賢察下さいまして、ご理解賜りますようお願い申し上げます。幸い、窪島誠一郎様のお計らいで無言館にてシンポジウムは開催することが出来ました。現下の状況を読み解き、明日への活路を開く当日の様子はYouTubeでご覧になって頂けますので是非見て頂きたい、ご案内申し上げます。最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸を祈念致しますとともに、改めてお会いできる日があればと期待してご挨拶と致します。

4月下旬に初めてキャンパスを見学させていただきました。重厚な感じを受ける学舎の中で、ロビーの吹き抜きに掲げられている3色のターフにそそぐ太陽光と、中庭の緑がたいへん印象的でした。また、教室や施設は隅々まで掃除が行き届き、丁寧に使われてきたことが感じられました。

コロナ禍で学生の登学が6月1日・2日の入学式から始まりました。この美しい学舎の中で、学生の皆さんが諸先輩同様、将来の生き方を見つける場所になることを期待しております。

1つはケア専門職の仕事の尊さを再認識したことです。直接他人に触れてケアするその仕事は、西欧の先進国では利益追求の経済活動とは区別された「公共的な仕事」と見なされています。国民の誰もがそのサービスを無償で受けることが出来るからです。医療崩壊や保育、介護の危機が語られている日本では、民営化路線を見直すことこそ最も重要な課題だと思ったのです。

もう1つは、保育や介護の現場には懸命に働いている本学の同窓生たちがいるということです。ケア専門職の人材養成を担う本学の使命の重要性を改めて感じたのです。



大阪千代田短期大学に  
着任して

事務局長 赤土 壽典

6月1日付で事務局長として着任いたしました。どうぞよろしくお願いたします。河内長野市にあって幼児教育や初等教育の分野で多くの優秀な人材を輩出してきた本学で仕事ができることを嬉しく思っております。

## コロナ禍で考えたこと



元学長 廣木 克行

新型コロナウイルスの感染が続いていますが、同窓生の皆さまお元気ですか？

緊急事態宣言下で自粛生活をしながら、私も第一線で奮闘している、医療現場や保育、介護関係者の仕事をTVで見っていました。社会における弱者の命と生活を守る「ケア専門職」の人々ですが、その姿を見ながら考えたことが2つありました。

## 母校の先生方

創立70周年おめでとうございます。

幼児教育科元教員 山崎 由紀子 先生  
戦後、混乱の中での創立以来、今日まで維持、発展させてこられた皆様方に心より敬意を表したいと思います。

私は大阪千代田短期大学附属幼稚園の山田由紀子先生と20代に、実習に来た千代田の学生を通じて知り合い、保育における「身ぶり表現から劇へ」を共に実践研究してきました。附属高校の『輝け青春群像-21世紀への教育』1985を読み、附属高校の教育や先生方に憧れてもいました。

短大で2002年から講師として12年間お世話になりました。担当は「保育過程論」「人間関係」「表現」「実習」とゼミでした。特に「表現」では、前期に劇づくりの講義をし、後期は学生主体でのクラス別による劇づくりに取り組みました。幼稚園・保育園の現場では、総合表現の劇づくりは必須ですが、自己表現の苦手な学生が、ましてや身体を使つての劇づくりにうまく向き合うのか心配でした。が、幼児教育科教員挙げてサポートし、アリーナの舞台で一回生や他学科生、保

千代田の歴史とともに、主体的な子どもの権利を考えよう！ - 70周年を迎えて -

幼児教育科教員 本田 和隆 先生  
「子ども家庭福祉」の授業を担当しています本田（51期生）です。卒業生の中には、「そんな授業あったっけ？」と思われる方もいるかもしれません。さて、ご自身が学んでいた時の福祉科目は何だったでしょうか？「児童福祉」「児童家庭福祉」、それとも「子ども家庭福祉」でしょうか？大阪千代田短期大学が生まれた1965年当時の子どもの福祉に関する科目は「児童福祉」という名称であり、その時代の「子ども観」によって科目の名称も変わってきました。そして現在では、

護者、附属幼稚園・保育園の子どもや先生、地域の人達を観客に迎えて劇発表が毎年できたのです。学生たちは対立や葛藤も経て、各自の創造性の結集された劇を会場一杯の観客の前で演じ終え、緞帳が下った舞台ではやり切った感動を身体中で受け止めていました。この劇づくり過程は文学的テーマも創造的に深め、劇の大団円と共に自身とクラス集団の変化を実感し、自己の課題も見つけられる、学生と全教員の創造的授業「表現」であったように思います。

また、ゼミでは中越大震災直後に人形劇をもって新潟の幼稚園・保育園を訪問したり、ゼミ旅行で長野県の「岩崎ひろ美術館」「無言館」へ行ったりしました。多様な表現活動を共にできた千代田短大の学生や学園が大好きです。これからも応援し続けたいと思います。

短大の図書館に毎年演じた劇のDVDや、劇づくりや意義を小論文にしたものが掲載された「紀要」も数号ありますので見ていただければ幸いです。

未成熟で従属的な意味がある「童(わらべ)」は用いられなくなり、権利行使の主体として「子ども」と表記するようになってきたのです。1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」によって、世界の子どもの観が大きく前進しました。この70年間、大阪千代田短期大学は、子どもの権利の歴史とともに紡がれてきました。まだまだ、「権利主体としての子ども」を価値とした地域社会になっているとは言えません。多数の卒業生の皆さんとともに、70周年記念を祝うとともに、子どもの権利について考え、それぞれの現場で実践してほしいと願っています。

## 卒業生の今

ひまわり会役員承諾は短大に恩返しできる機会

西浦 良治(総コミ6期生)

2019年度より「ひまわり会」役員に指名頂き、千代田短期大学に恩返しをする機会を与えてもらえたと思いき早く承諾させて頂きました。

千代田短期大学では総合ケアコミュニケーション学科で介護福祉士になるためのカリキュラムを受講していました。講義内容はもとより、学習への姿勢や身だしなみまで厳しく、いや、とても厳しく指導して頂きました。今となっては「あれがあったから、ある程度は耐えられる」と同期の友達と話しています。また、講義では根拠(エビデンス)をしっかりと学んだことを、振り返ってみて思えます。職場に出てからは利用者へ「なぜそのケアを行うのか」を考えることが出来、利用者との信頼関係が構築される一つが出来ていると感じます。

長〜〜く 会計担当しています

寺坂 佐恵子(幼教4期生 旧姓:原田)

同窓会ひまわり会で会計担当として携わって、長〜〜い年月が経っています。多くの方が千代田短期大学を巣立ち、社会のあらゆる所で活躍の姿、お話を伺い、共に学んだ者としてとても嬉しく思っています。ひまわり会では、皆様からお預かりした会費を基に、日々の活動に、時には短大の活動を後援し、10年前よりは特に短大在学中での学生の生活を少しでも後押ししたいと、ひまわり学業奨学金の給付制度を設け、無返金の援助を毎年してきました。そして、本年度はコロナによる緊急学習環境整備の一環として、全学生に特別支援を行いました。小山田祭では“おばあちゃんのおでん”の店も出し、毎回美味しいと好評を得ています。食べていただいた事があったかも知れませんが、役員会を中心に賑やかに活動を続けています。ぜひお気軽に短大へ、ひまわり会総会へと足をお運び下さい。

今は「おうち時間」を楽しんでいます

林 咲希(幼教47期生)

近日、流行り病で大変な世の中で、今は時短にはなりましたが、電車通勤をしており、保菌者の可能性が高い為、仕事以外では人と会うことを控えています。これからまだ起こりうるかもしれない自粛を、不安な気持ちばかりで過ごすのではなく、程よく、こんな時期だから楽しめることもあるのかなあと前向きに工夫して、映画鑑賞・読書・料理で「おうち時間」を楽しんでいます。

懐かしい場所で授業しました

堤 和子(幼教4期生 旧姓:大谷)

昨年大阪暁光高校(旧千代田高校)保育コース3年生の「絵本」の授業を担当しました。保育の様々な場面で活用される絵本です。おもしろ・おかしだけでなく、子どもの成長を支える絵本を選ぶようになって欲しいと取り組みました。初めてのことはばかりで、自分の力の無さに落ち込む事もよくありました。教室は昔短大のあった場所に建てており、その裏山に私が2年間過ごした第一寮の跡が雑木林化しつつ残っています。そこを見るたびに楽しく学びの多かった大学生活を思い出し、青春に戻ることでできた1年間でした。

母校で喜びと誇りを感じつつ働いています

森 寿美(幼教14期生 旧姓:堀井)

振り返りますと、卒業をして40年が経ちました。そして、母校で勤務して29年を迎えています。長く教務課で学生と共に、成績、履修や実習のことに無我夢中で仕事をしてきましたが、今は、生涯学習センターで、教員免許状更新講習等、社会人の方を対象に講習を担当しています。これからの社会を担っていく学生のみなさんと、人生経験豊かな一般の方々と一緒に働いて充実した毎日を過ごしています。そして、創立70周年を迎える誇り高き学校法人千代田学園の卒業生であり、また、職員であることに喜びと誇りを感じています。今後教職員一体となって更なる発展を目指す一人として役割を果たせたら幸いかと思います。